

第16回高知大学看護学会報告

第16回高知大学看護学会は、「ケアリングとしての看護実践」をメインテーマとして、令和3年11月13日(土)に開催いたしました。講演は、Dr. Locsinの中範囲理論である「Technological Competency as Caring in Nursing (看護におけるケアリングとしての技術力)」についてお話しいただきました。また、学会参加者に向け、Dr. Locsinと長年にわたり共同研究を行っている徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授 谷岡哲也先生がチャットで同時翻訳してくださいました。

現代の医療および看護実践では、高度な科学技術が導入され、看護ケアの価値は高まってきていますが、それを使用する専門職としての高度な技術力が必要とされています。Dr. Locsinの中範囲理論である「Technological Competency as Caring in Nursing」では、看護の過程として「人をケアリングとして理解する」ために、技術的理解、相互設計、参加型関与という3つのプロセスが重要だという、独自の看護の過程を示されました。また、人をケアの対象としてではなく、ケアの参加者として考えることによって表現することができることや、理論に基づいた実践を重視することで、看護師の技術的能力をケアリングとして理解し、看護の実践に影響を与え、向上させることができることなどについてご講演いただきました。ケアと高度な科学技術は、相反するように思われますが、看護職はこの2つを融合し、実践の中でケアリングを行い、ケアとしての技術を追求することが求められています。看護のためのケアリングとしての技術力の理論は、ケアリングと科学技術を看護に適応させるために有用な理論であることが共有され、貴重な学びとなりました。

会期および開催方法：令和3年11月13日(土)、Web開催

【 プログラム 】(敬称略)

9：30～ 開会

学会長挨拶：山脇 京子(高知大学医学部看護学科長)

医学部長挨拶：菅沼 成文(高知大学医学部長)

講演

講師：Dr. Rozzano C. Locsin(徳島大学大学院医歯薬学研究部名誉教授)

演題 「看護におけるケアリングとしての技術力」

座長・通訳：大坂 京子(高知大学医学部看護学科教授)

12：00～ 総会

13：00～ 研究発表(示説・抄録紹介)

14：30 閉会